

奨励賞

○ 設計者

近藤 創 順

- 東京建築士会
- (株) プラスニューオフィス



- 共同設計者:
瀬戸 健 似



○ 共同住宅 (併用)

ゆいま〜る那須

- 栃木県那須郡那須町

選 評

起伏ある敷地に、中庭の周りに12戸から18戸の木造ユニットを外廊下で繋いだ5ブロックからなるこの施設群は、一瞬森の中のバンガローかと思うほど、今までに見たことのない分離型高齢者住宅である。近年高齢化が進む中で、高級施設と最低限の二極化が起こり中間層のための施設がないという現状に着目したある株式会社が、運営提案を含むコンペを開催し実現した新しいタイプのサービス付き高齢者住宅なのだ。現状は、何より寝たきり比率が低く、食事が必要な場合以外は自炊ということで、生き生きと生活が楽しまれている様子は、じつにすばらしかった。このやり過ぎず自立を支える運営姿勢は正当であろう。

それぞれのユニットは二戸背中合わせの形で三方が解放されているため、隅々まで明るく、風が通り健康的である。廊下は縁側として住民同士の交流の場となり、それに面した広めのエントランスは内外の中間域として可能性のあるスペースとなっている。

食堂、デイケアセンター、図書室、音楽室などの共用スペースが各ブロックに分散配置されているのも適切に思われたが、冬の外廊下の問題や、方位に関係なく配置された住居の環境、杉板外壁のメンテナンスや各部ディテールなど、いま一步の、原論に基づく対応が求められよう。

(櫻井 潔)



A



B



C



D



E

- A: 北側外観。中庭を囲むように住戸を配置しており、住戸の向きは異なる
- B: 2階通路より中庭を見る。雑木林であった敷地の高低差をそのまま利用し、さまざまなシークエンスをつくり出している
- C: 住戸前通路
- D: 住戸内部。壁・天井の内装材には調湿性能のあるケイ酸質の材料を採用。床材には、地場の八清山系の杉材を無垢のまま使用している
- E: 各住戸は中庭に「エンガワドマ」を向けて寄せ合う。お互いの気配をさり気なく感じ、相互に見守りやすい環境とした
- F: 全景
- G: 自由室外観。敷地内には食堂、図書室、音楽室といった共用棟もあり、コミュニケーションの場となっている



F



G



平面詳細図



矩形図

- 構造・階数：木造、地上2階建て
- 敷地面積：9,978.05㎡
- 建築面積：3,561.04㎡
- 延床面積：3,528.26㎡
- 竣工：平成23年12月9日

写真撮影：新澤一平